

長浜米原地域医療支援センター 事業報告2023

参考資料

専門員 池野 さち子 丸岡 留美子



当支援センターは長浜市・米原市からの委託を受け、在宅医療・介護連携推進事業を行っています。

在宅医療と介護が共通する4つの場面（日常療養支援・入退院支援・急変時対応・看取り）において、両市とともに課題を抽出し、目指す姿と取り組みをロジックモデル（設計図）に落とし込み整理しています。目指す姿に向かってPDCAサイクルに沿った取り組みができてきているか等を評価している段階です。

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行となった2023年度は、住民啓発の出前講座の依頼も増え、多職種連携研修会も対面で開催できるようになり、専門職の顔の見える関係づくりができるようになりました。

下記の事業項目に沿って最終評価と課題を報告します。

- (1) 在宅医療と在宅介護のそれぞれの提供体制を構築するため、受託者が中核的な役割を発揮しながら現状把握と必要な情報を収集し、課題を把握・分析、施策の企画及び立案をし、医療・介護関係者に周知する業務
- (2) 地域の医療・介護関係者からの在宅医療介護連携に関する相談に応じ必要な情報提供及び助言、その他必要な援助を行う事業
- (3) 在宅医療・介護連携に関して地域住民の理解を深めるために普及啓発を行う事業
- (4) 医療・介護関係者間の情報共有を支援する事業、在宅医療・介護関係者に対して在宅医療・介護連携に必要な知識の習得及び当該知識の向上のために必要な研修を行う事業、その他地域の実情に応じて医療・介護関係者を支援する業務
- (5) その他の事業

(1) 在宅医療と在宅介護のそれぞれの提供体制を構築するため、受託者が中核的な役割を發揮しながら現状把握と必要な情報を収集し、課題を把握・分析、施策の企画及び立案をし、医療・介護関係者に周知する業務

- ①地域の医療・介護の資源情報を把握する。
- ②診療所および訪問看護ステーションの機能詳細情報の調査を行い、関係機関へ情報共有する。
- ③ホームページを活用し、資源情報を医療・介護関係者や住民へ公開提供する。
- ④資源情報は、最新情報を提供できるように適宜更新作業を行う。
- ⑤関係者専用ページを設置し、湖北地域の共通資料等を集約することでホームページの充実を図る。
- ⑥在宅医療と在宅介護における課題をインタビューなどで聞き取り把握する。
- ⑦把握した課題を整理し、関係機関と連携し解決に向け取り組む。
- ⑧⑥⑦について関係者へフィードバックし、円滑な連携が図れるようにする。
- ⑨事業会議を開催し両市と協力し、⑥⑦⑧で把握した内容などを基に、課題分析・対応策を検討する。
- ⑩両市と共に⑨で検討した対応策を企画・実施し、評価する。

(1) ー ①情報の把握と発信

- ◇全診療所の機能調査と在宅医療に関する詳細情報調査の実施し、希望の3病院に診療所の調査内容をデータ提供した。全訪問看護ステーションの情報調査 →適宜ホームページの更新作業を行った
- ◇会員ページに、両市が開催するケアマネジャー研修会資料などを掲載し幅広く活用。
- ◇3月にホームページの見直しを行い、関連書類の整理や掲載方法の検討を行い大きくリニューアルした。
- ◇研修等の報告もホームページに掲載し、広報つながりからホームページに誘導するようにした。
- ◇「医療と介護の手引き」の改訂の会議に参加し、HP上で情報発信した。

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
2120	2726	3139	2679	3804	33725	65582

※年間HPアクセス件数の経緯

◆今後の課題

- ◇ホームページの内容の適宜見直しとリニューアル後の周知（研修前の紹介、広報つながり等）
- ◇2024年度の機能調査は、新規事業所のみ予定



資源情報

住民向け講座

関係機関のご案内

医療介護関係者向け

医療介護関係者向け

関係者限定ページ

医療介護関係者向けを
大きくリニューアル

ホーム / 医療介護関係者向け

このページに掲載している資料は、関係者限定での公開となります。パスワードや資料の取り扱いにはご注意ください。

 研修会	 居宅介護支援事業所研修会資料等	 各種マニュアル・様式
 他職種間の情報共有	 医療介護の相談窓口	 お役立ち情報・資料

(1) ー ②実態の把握

- ・在宅医療福祉関連機関の現状・課題把握と課題のフィードバックや検討
- ・在宅療養支援に必要な情報の集約・周知

◇在宅医療と在宅介護職に専門員が積極的にインタビューを行った。(41件)

医療関係18件 介護関係23件

◇関連する会議等へ参加し意見を収集した。

◇支援関係者からの相談内容も課題や取り組みへの参考にした。

◇長浜市、米原市、保健所で把握している関係者からのデータ（アンケート調査等）や会議内容も参考に必要な情報を得た。

◇研修のグループワークで話し合った内容は課題の抽出や取り組みのヒントとなり効果的である。

◆今後の課題

◇アンケート調査だけでなく、今後もヒヤリングを行い声を大切にしていく。

◇4つの場面における情報が不足している。

多職種連携の研修でのグループワークの内容を整理して、情報として集約していく。

(1) ー ③県・市と行う事業会議での共有・分析・課題の抽出
・定期的な課題抽出のための連携会議の開催

◇毎月の事業会議にて得た必要な情報について共有した。

◇両市・県（保健所）とともに課題抽出

入退院支援の場面

急変時の対応

日常の療養支援

看取りの場面



(1) ー ③県・市と行う事業会議での共有・分析・課題の抽出

【日常の療養支援の場面】 ケアマネジャーの力量 診療所と包括支援センターとの連携 ケアマネジャーと医師との関係 びわこあさがおネットについて	【入退院支援の場面】 入院時サマリの活用 入院中の連携の不備 病院職員の在宅イメージの不足 薬や物品の連携
【急変時の場面】 かかりつけ医との関係 往診体制 救急外来センターとの関係 消防との関係	【看取りの場面】 緩和ケアの現状 看取りの体制 施設看取り 病院とのW主治医との関係 社会問題の影響 ACPへの意識

ACP

◆今後の課題

◇課題抽出のための必要なデータ、声等はまだ不足。データに基づき話し合い分析することが大事。

(1) ー ③県・市と行う事業会議での共有・分析・課題の抽出 ・PDCAサイクルに沿った体系的な取り組みと評価

◇両市（わが町の地域ケアを考える会メンバー）とともに県の研修にも参加し、特に看取りの場面において、PDCAサイクルを回す取り組みをした。

◇事業会議では、進捗状況を報告し、ロジックモデルに基づいて、中間評価、最終評価を共有した。

◆今後の課題

◇データだけでなく、同時に多職種や住民の声を裏付けて分析していく。

◇評価見直し、方法については、チェックポイントを参考に、両市とともにさらに具体化していく。

課題より

①薬—薬連携に関する課題

【日常の療養支援の場面】 ケアマネジャーの力量 診療所と包括支援センターとの連携 ケアマネジャーと医師との関係 びわこあさがおネットについて	【入退院支援の場面】 入院時サマリの活用 入院中の連携の不備 病院職員の在宅イメージの不足 <u>薬や物品の連携</u>
【急変時の場面】 かかりつけ医との関係 往診体制 救急外来センターとの関係 消防との関係	ACP【看取りの場面】 緩和ケアの現状 看取りの体制 施設看取り 病院とのW主治医との関係 社会問題の影響 ACPへの意識

◇訪問看護の声から入退院時の薬についての課題があり、湖北薬剤師会と話し合い現状をさらに知るために4病院の薬剤師と看護師に調査した。調査結果を薬剤師会に報告し、在宅と病院の連携について検討される。

課題より 急変時の場面に関する課題

<p>【日常の療養支援の場面】</p> <p>ケアマネジャーの力量 診療所と包括支援センターとの連携 ケアマネジャーと医師との関係 びわこあさがおネットについて</p>	<p>【入退院支援の場面】</p> <p>入院時サマリの活用 入院中の連携の不備 病院職員の在宅イメージの不足 薬や物品の連携</p>
<p>【急変時の場面】</p> <p>かかりつけ医との関係 往診体制 <u>救急外来センターとの関係</u> <u>消防との関係</u></p>	<p>【看取りの場面】</p> <p>緩和ケアの現状 看取りの体制 施設看取り 病院とのW主治医との関係 社会問題の影響 ACPへの意識</p>

ACP

急変時の場面→ 住民・医療福祉関係者へのACP啓発に併せ、急変時の対応について考える

- ◇ 家族向けの看取りのリーフレットの中に人生会議のことや呼吸停止時の救急車をよぶこと、心臓マッサージについて掲載した。人生会議の住民講座、看取りの交流会時にも医療福祉関係へ配布して啓発した。
- ◇ 急変時場面に関しては、訪問看護ステーションからの情報をもとに、9月に両市とともに課題を抽出した。連携にまつわる困りごととして、①かかりつけ医との関係、②救急外来・救急センターとの関係、③消防との関係、④往診体制があげられた。また、身寄りのない人や家族と疎遠な人が増えている現状があり、急変時の入院、入所時の際に困っていることがわかった。
- ◇ 2月に厚生労働省の「在宅医療・救急医療の連携にかかるオンラインセミナー」を視聴した。視聴内容より、センターとして、できそうなことを整理した。
- ◇ 3月6日の「看取り期の家族ケア」では、リーフレットに掲載していた心肺蘇生のことや、救急車を呼ぶことについての内容を話した。今年度は課題の抽出にとどまり、内容にまつわる分析や具体的な取り組みは来年度とする。

◆今後の課題

- ◇ 現状を把握するための調査やヒヤリングを実施
(長浜赤十字病院救急部長と湖北地域消防本部救急課長には協力依頼済)
- ◇ 出前講座でも住民が急変時についても考えられるように内容を検討する

(2) 地域の医療・介護関係者からの在宅医療介護連携に関する相談に応じ、必要な情報提供及び助言、その他必要な援助を行う事業

- ①コーディネーター及び医療・介護専門員を設置する。
- ②関係者への専門職の相談窓口であることを、チラシや機関誌を活用し積極的にアピールする。
- ③関係者からの在宅医療と介護連携に関する相談を受付し、必要に応じて関係者間で共有する。
- ④湖北圏域全体に波及する課題があれば、意見交換会などを開催し、方策を検討する。

◆相談支援（2023年度）

相談者の職種	件数 50件
介護支援専門員	12件
訪問看護師	10件
保健師	6件
病院看護師	5件
相談員	2件
デイサービス職員	2件
施設看護師	1件
医師	2件
一般住民	3件
他地域より	7件

相談内容としては

- ・ 退院支援時の連携に関する困りごと
- ・ 職種間での連携や周知に関すること
- ・ 地域の事業所やサービス内容など資源に関する情報提供
- ・ 制度上の質問
- ・ 医療行為に関すること
- ・ 医療機器（吸引器）の貸し出しに関すること
- ・ 医療依存のある人の災害時の対応について
- ・ 看取り代診システムについての問い合わせ
- ・ 出前講座に関する問い合わせ
- ・ びわ湖あさがおについて
- ・ 終末期のケア方法について
- ・ 利用者とのかかわりやコミュニケーションについて

◆今後の課題

- ◇HP上で相談フォームを設置した。利用状況を把握する。
- ◇交流会の中で、気楽に相談できる時間をつくる。

(3) 在宅医療・介護連携に関して地域住民の理解を深めるために普及啓発を行う事業

- ①地域の関係機関・団体が実施する取り組みなどを把握し、内容や実施方法を検討する。
- ②住民向け講演会や出前講座を開催する。
- ③生活支援コーディネーターや認知症推進員らと協働する。
- ④地域包括支援センターと連携し、地域の情報を共有する。
- ⑤オリジナルエンディングノートなど、在宅医療・介護に関する啓発資料の作成をする。

◆我がまちの地域包括ケアを考える会

担当	項目	内容
県	「我がまちの地域包括ケア」を考える研修会 県医療福祉推進アドバイザー 松本佳子先生の講義等(3回)	滋賀県における在宅医療推進のための基本方針に基づいて、両市とともに看取り場面のロジックモデルの検討をした。
長浜市	3CO関係者と会議(4回)	7月26日 認知症Coと共同で講演会を計画。 11月19日 認知症講座にて、エンディングノートについて住民56人に講義する 12月22日 認知症Co10人 生活支援Co28人に、住民向け人生会議の内容を伝達し、今後の住民とのかかわりへのきっかけとってもらうことがねらい。 2月26日 3Coが葬儀屋フローラの代表者の話を聞き、今後の人生会議やかかわりの参考とする。
米原市	3CO関係者と会議(3回)	5月19日 現状と取り組みについて話し合う。 9月13日 Coと事業の取り組みの進捗状況報告 3月5日 1年間の事業の評価と来年度に向けて話し合う。 生活支援Co1名が、出前講座に参加してくださった。

◆出前講座・地域医療福祉フォーラムなどの経緯

	出前講座		主催フォーラム・講座		備考
	回数	参加人数	回数	参加人数	2020年から講座以外で、各団体に啓発グッズを提供
2023年	18	312	3	56	コロナが第5類となり、出前講座の依頼が増加 地域包括と共催にて住民講座「もしバナゲーム」を実施
2022年	9	267	1	70	出前講座で「もしバナ紹介動画」を視聴 啓発グッズ一式提供 140部
2021年	10	200	コロナ禍で休止		もしバナ紹介動画作製 民生委員など希望の団体に啓発グッズ提供 110部
2020年	16	261	コロナ禍で休止		コロナ感染で出前講座やフォーラム等が休止にて各団体に資料提供を行い活用してもらう事にした 啓発グッズ一式提供 350部
2019年	14	364	1	128	

◆住民向け人生会議講座「もしバナゲームを体験しよう！」

神照まちづくりセンター



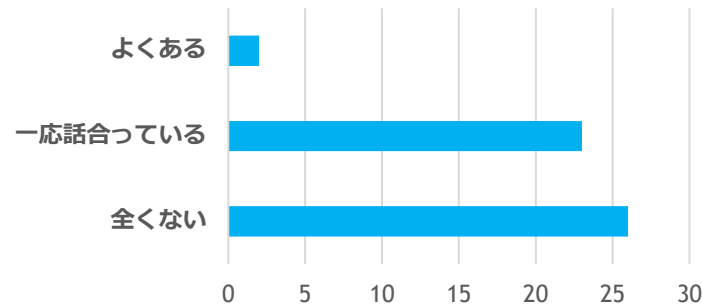
近江学びあいステーション



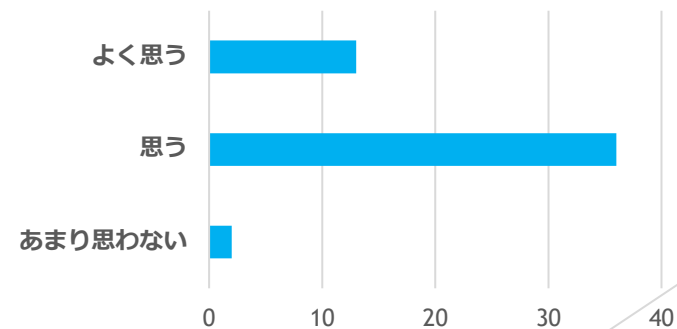
高月まちづくりセンター



Q.人生の最終段階の医療やケアについて
大切な人と話し合ったことはありますか？



今後話し合いたいと思いますか？



◆今後の課題

- ◇「人生の最終段階」や「人生会議」という言葉だけでは、集客は望めない。
高齢者は健康や予防に関する講座のニーズが高く、次年度の講座内容を検討する。

◆出前講座

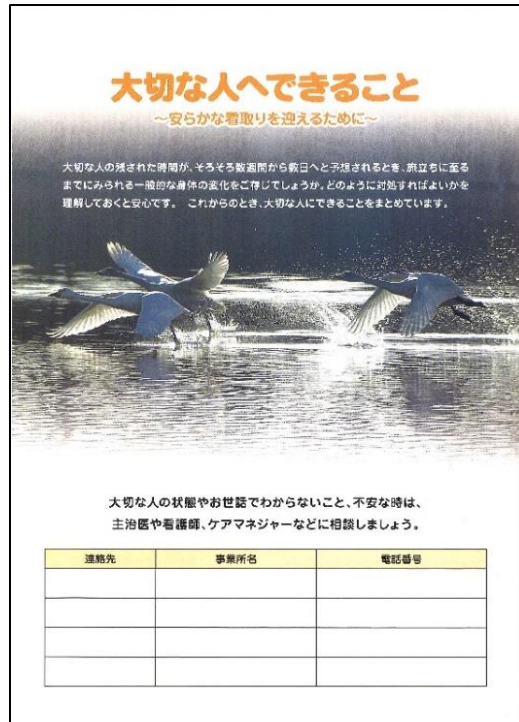


- ◇ 18件 312人の参加 老人会、自治会からの申し込み依頼がほとんど。
- ◇ 申込者のニーズに合わせて、講義内容や時間の工夫したり、土日開催のニーズにも応えるようにした。

◆今後の課題

- ◇ 受講後1年後に追跡調査を実施し分析していく（調査同意者177人）
- ◇ 出前講座のチラシの見直し（参加者の声を載せるなど）

◆啓発資料の見直しと啓発方法



- ◇ 看取りのリーフレットの見直し
リーフレットを用いたコミュニケーション
についての支援者向け学習会を開催

- ◇ エンディングノートの見直し
市役所のお悔やみコーナーにも設置
専門職が講師をする場合も利用可能とした

◆ 今後の課題

- ◇ 引き続き、啓発資料を用いた支援者向け学習会の開催
- ◇ 設置したエンディングノートを持ち帰った場合、QRコードでアンケートに答えられるように検討する。

(4) 医療・介護関係者間の情報共有を支援する事業、在宅医療・介護関係者に対して在宅医療・介護連携に必要な知識の習得及び当該知識の向上のために必要な研修を行う事業

- ① コロナ禍を終えての、関係者間情報共有に関する実態調査を実施する。
- ② 情報共有ツール等の利用促進のための検討会議の開催
- ③ ①②で把握した状況や好事例を、機関誌などを活用し共有、利用促進する。
- ④ 湖北地域の多職種連携・情報共有を目的とした機関誌「つながり」の発行をする。
- ⑤ 関係団体の活動状況を把握し、多職種の課題に応じた研修の企画・開催をする。
- ⑥ 多職種の顔が見える関係を築くための交流の機会を検討・企画する。
- ⑦ ⑥で企画した交流を兼ねた研修会などを実施、地域をわけ開催する。
- ⑧ 湖北医師会地域包括ケア部と協力し、看取り期における連携システムの構築に向け取り組む。



◆実態調査（びわこあさがお）

- ◇6月の長浜市主任ケアマネ会議にて、びわこあさがおの活用状況を確認
パスワードの変更の手間や、メール以外の機能の利用はできていない現状があることがわかった。
得た情報を医療情報ネットワーク事務局と情報共有した。
- ◇コロナの第5類以降の多職種連携の変化についての実態調査は、保健所主催の連携にまつわるデータの中にもあるため、支援センターとしては実施せずに様子を伺うこととした。
- ◇1月初めにびわこあさがおの利用状況を確認するために、研修案内と既読状況を確認したところ
2割にも満たなかった。
- ◇2月26日に関係者で会議し、今までの調査の情報共有と今後の方向性を検討し来年度の課題とした。登録数は多いがメール機能でさえ、活用できている人は少ない現状がわかった。

◆今後の課題

- ◇ 支援センターで得た情報については、協議会のメンバーに報告し、今後の協議会の動きを把握しながら、湖北地域の事務局と相談しすすめていく。
センターとしては、普及に辿りできることを協力していく姿勢。
使用者目線だけでなく「患者にとって多職種がつながっていることが安心」という住民目線を大事にしていく。

◆ 多職種連携 学習会

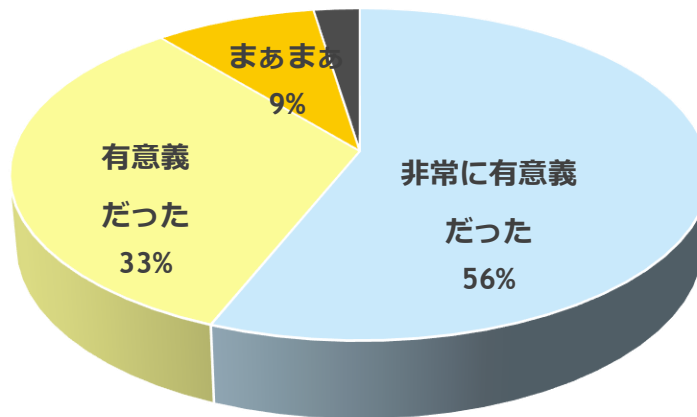
開催日程／講師	テーマ	様子	参加数
<p>2023年7月27日(木) 13:30～14:30 講師 浅井東診療所 ソーシャルワーカー 寺村 育美 氏</p> <p>メディサポ2階</p>	<p>講義「気づくこと、聴くこと、つなぐこと」 GW 日頃の業務の中で「聴くとき」「つなぐとき」にしている工夫</p> <p>(広報誌つながり7号に記載)</p>		<p>41人</p>
<p>2024年3月6日(水) 15:30～17:00 講師 長浜米原地域医療支援センター 専門員 丸岡 留美子</p> <p>メディサポ2階</p>	<p>講義「看取り期の家族ケア」 ～大切な人へできること～</p> <p>看取りのリーフレットを使って利用者家族へのコミュニケーションを学びませんか？</p>		<p>33人</p>

◆ 今後の課題

- ◇ 看取りのリーフレット研修は来年度も継続
- ◇ 人生会議について、交流会とあわせて開催していく

◆ 多職種連携 交流会

開催日程／講師	テーマ	参加数	
2023年11月14日(火)メディサポ 11月17日(金)市立長浜病院 12月14日(火)長浜赤十字病	畑野秀樹医師 松井善典医師 森上直樹医師	「在宅看取りを考える」 第1部 湖北地域在宅看取り代診システムのレクチャー 第2部 在宅看取りにおける困りごとや課題などを共有し、 今後何ができるか 語り合い (広報誌つながり8号に記載)	94人



◆ 今後の課題

- ◇ 定期サロンとして、人生会議をテーマに交流できる場をつくる。医療スタッフも参加してもらえる工夫
- ◇ 4場面の課題に基づいた、他団体の企画を支持するかたちで協力していく。

◆ 広報誌つながり 7号 (R5.9月)



- ・多職種連携研修会「介護の相談」にあなたはこたえられますか？
- ・保健師の役割を知って多職種チームの一員に！
- ・いざというときに医療機器を貸し出します
- ・相談窓口、長浜米原地域医療支援センターの紹介

◆ 今後の課題

- ◇ 発行の回数の検討 なるべくホームページに誘導していく

◆ 広報誌つながり 8号 (R6.2月)



- ・湖北地域の「在宅看取り代診システム」がモデルチームよりスタート！
- ・多職種交流会「在宅看取りを考える」開催報告
- ・看取りのリーフレットが新しくなりました！
- ・住民向け人生会議講座「もしバナゲーム体験会」開催報告
- ・こんな相談がありました（事例紹介）

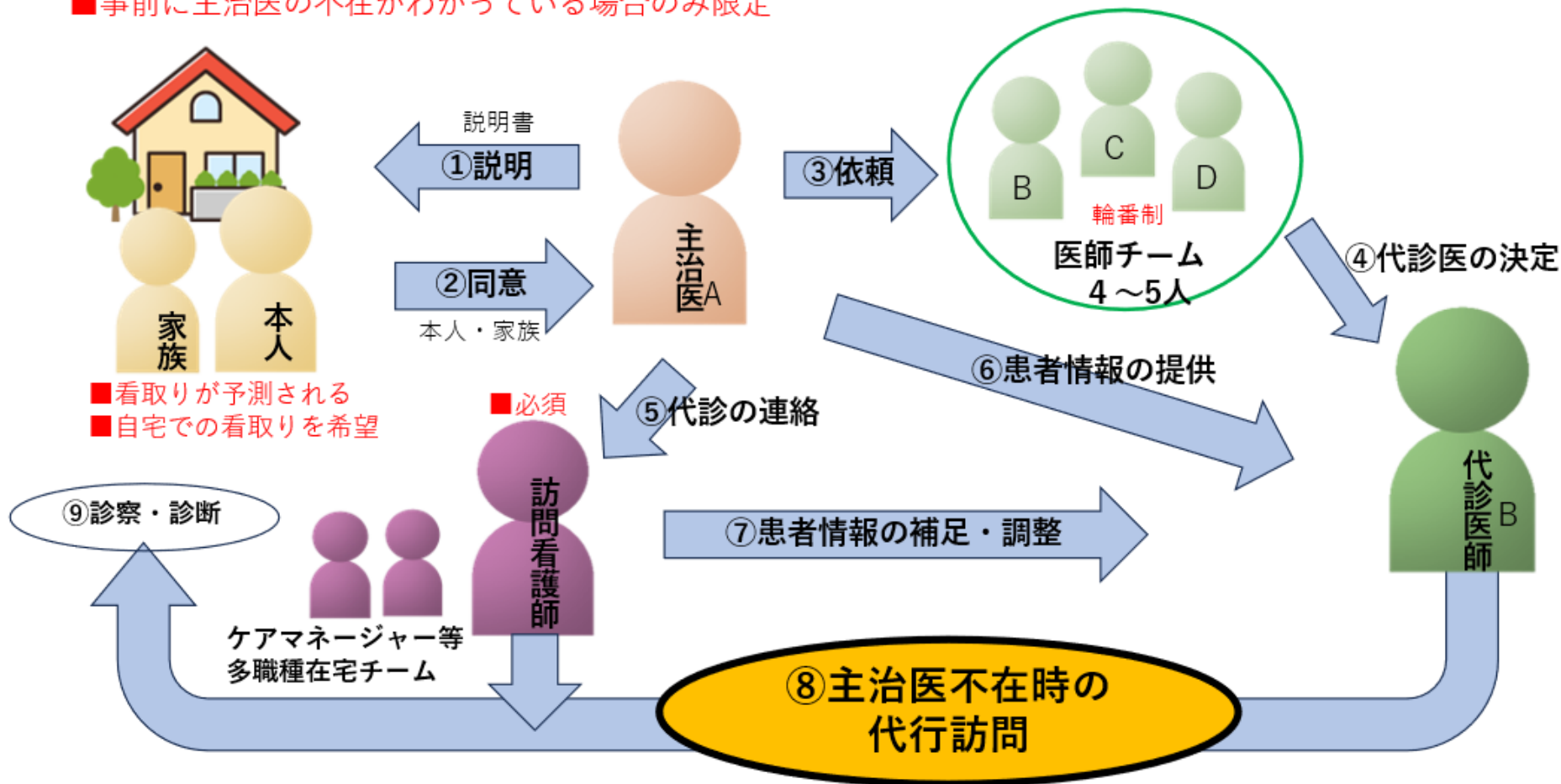
◆看取り期の連携システムの構築

湖北在宅看取り代診システム

浅井虎姫地区診療所モデル

条件

■事前に主治医の不在がわかっている場合のみ限定



◆今後の課題

- ◇ モデルチームの運用の事例を重ね検討していく。
- ◇ 次の候補地域の情報を得て、湖北地域全体にシステムの拡大をはかる。

(5) その他の事業

◆ 関係する会議に参画

①長浜米原地域医療支援センター事業会議(毎月)

関係者とロジックモデル作成

②湖北地域介護サービス事業者協議会にオブザーバーとして参画(2回)

③入退院支援ルール評価・検討合同会議(保健所主催:2回)

④湖北地域看護職連携会議(看護協会主催:1回/2か月)

⑤我がまちの地域包括ケアを考える研修会(市町主催:長浜4回・米原3回 県主催3回)

⑥医療と介護の連携の手引き検討会議(市主催:6回)

⑦地域包括ケア部と話し合い(医師会と共催:6回)

⑧難病対策地域協議会(保健所主催:1回/年)

⑨第6地区訪問看護ステーション連絡協議会定例会(2回)

⑩その他 地域包括支援センター主催 民生委員とケアマネジャーとの交流会に参加など